

ver.2.0.1.0

レポートエディタ

Report Editor *Advance*

報告書作成支援ソフトウェア

取扱説明書



SIR-EZ XT
対応



KEYTEC

コンクリート鉄筋探査機機のパイオニア

Report Editor ver.2.0.1.0 操作説明書



目次

1. セットアップ方法	2
1.1 インストール.....	2
1.2 アンインストール.....	3
2. Report Editor Advance の起動と終了	4
2.1 Report Editor Advance の起動.....	4
2.2 Report Editor Advance の終了.....	4
3. 機能	5
3.1 主な機能.....	5
3.2 画面構成.....	5
3.3 メニュー.....	6
4. 画面説明	7
4.1 ファイル.....	7
4.2 設定.....	9
4.3 編集.....	11
4.4 表示.....	11
4.5 ツール.....	12
4.6 ヘルプ.....	12
5. 操作説明	13
5.1 画像データの操作.....	13
5.2 ポイント操作.....	23
5.3 設定.....	26
5.4 編集.....	30
5.5 表示.....	32
5.6 ファイル.....	33

1. セットアップ方法

1.1 インストール

本ソフトは Report_Editor_Advance ・ ソフトウェア本体と取扱説明書で構成されています。

<再インストール・Advance にアップデートする場合>

《注意》 前回インストールされたソフトとフォルダが残っている場合、不具合が発生いたします。

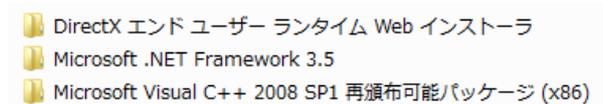
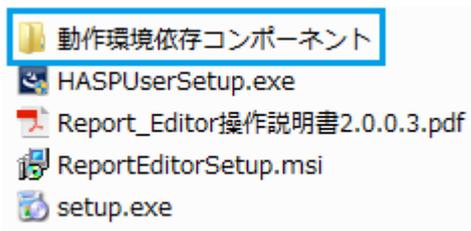
1. スタートメニューからコントロールパネル、プログラムと機能を開きます。（または windows キーを押しながら R を押し appwiz.cpl と入力）
2. Report Editor または Report Editor Advance をアンインストールします。
3. アンインストール後、下記の場所に ReportEditor のフォルダが残っている場合は削除します。

64bit の場合 C:¥Program Files (x86)¥NSS 32bit の場合 C:¥Program Files (x86)¥NSS

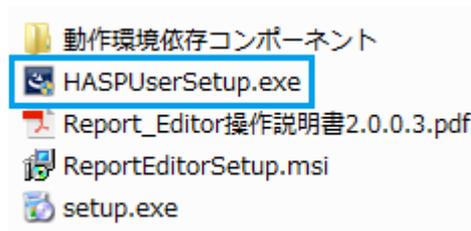
<初回インストールのお客様>

《注意》 ソフトインストール作業は、USB（dongleキー）をパソコンに挿入せずに行ってください。

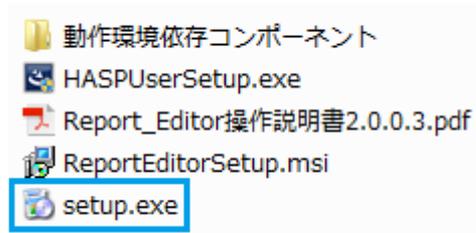
1. 動作環境依存コンポーネント】フォルダ内にある 3 つのプログラム（dxwebsetup.exe、dotNetFx35setup.exe、vcredist_x86.exe）を実行して、インストールします。



2. 【HASPUserSetup.exe】を実行して、インストールします。



3. 【setup.exe】を実行して、Report Editor/Report Editor Advance をインストールします。



4. 正常にソフトがインストールされた場合は、USB をパソコンに挿入すると、dongleキー内のLEDが赤く点灯します。



1.2 アンインストール

すでに古いバージョンの Report_Editor_Advance がインストールされている場合は、システムコントロールパネル内の「プログラムの追加と削除」または「プログラム機能」より古い Report_Editor または Report_Editor_Advance を削除してください。

アンインストール後、下記の場所に ReportEditor のフォルダが残っている場合は削除します。

64bit の場合 C:¥Program Files (x86)¥NSS 32bit の場合 C:¥Program Files (x86)¥NSS

2. Report_Editor_Advance の起動と終了

2.1 Report_Editor_Advance の起動

- «注意» ・ USB ドングルを PC の USB ポートに挿入していない場合、Report_Editor_Advance を起動させることはできません。
- ・ USB ドングルが接続されていることを確認してから起動して下さい。



- ・ デスクトップ上のアイコン  をダブルクリックすると起動します。

2.2 Report_Editor_Advance の終了

画面右上の×ボタン  を押して終了してください。

3. 機能

報告書作成ソフトの機能について以下に示します。

3.1 主な機能

- ・測定データファイルの読み込み(*.DZT, *.DZTX)
- ・レーダデータ画像化
- ・波形表示
- ・ポイント表示
- ・ポイント座標表示
- ・配筋表表示
- ・Excel への画像出力
- ・複数の測定データの Excel 出力
- ・ポジション、比誘電率などの設定
- ・スクリーンショットで JPEG 形式 PING 形式 TIFF 形式 BMP 形式の何れかの形式画像保存

3.2 画面構成

報告書作成ソフトは、タブ機能を用いた MDI (マルチ・ドキュメント・インタフェース) 形式のユーザーインターフェースにより、複数のデータを同時に展開・表示が可能です。

本ソフトが立ち上がると以下の画面が表示されます。

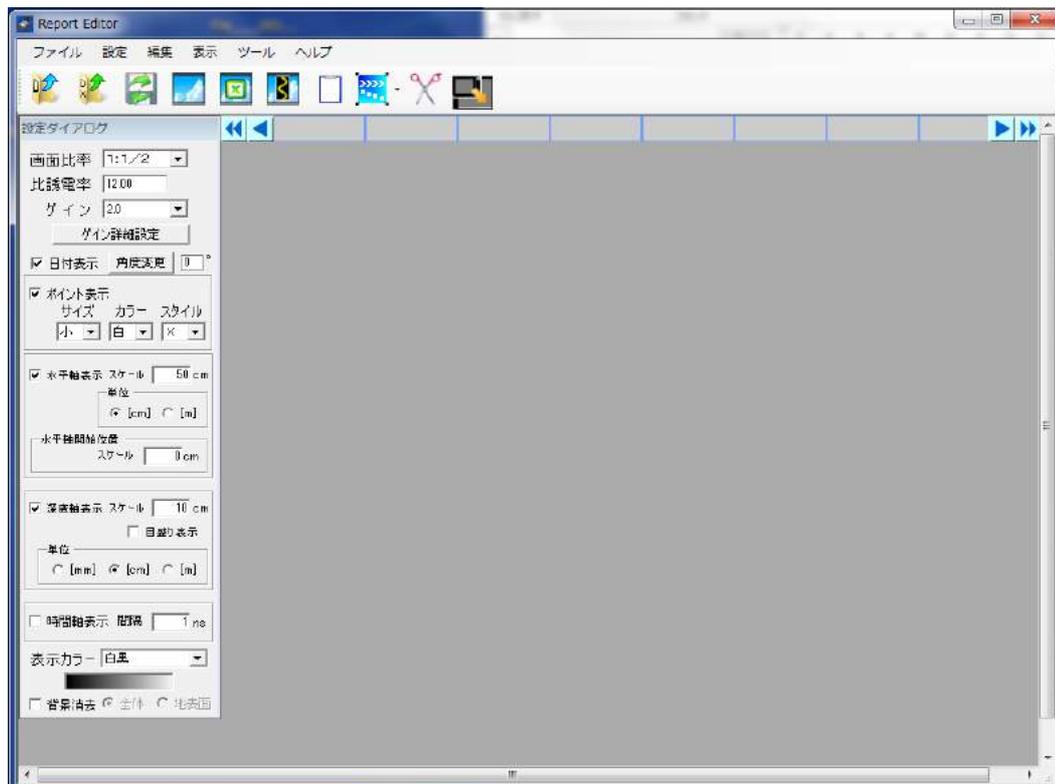


図 3.2-1 初期画面

3.3 メニュー

メニュー項目を以下に示します。



図 3.3-1 メニュー画面

(1) 「ファイル」メニュー

ファイルの展開及びファイル保存を行います。

(2) 「設定」メニュー

画像データに関する表示設定を変更することができます。

(3) 「編集」メニュー

画像データのコピー、切り取りを行うことができます。

(4) 「表示」メニュー

オブジェクトの整列、表示されているポイントの整列、画面上に表示されている設定ダイアログの表示/非表示の設定が行えます。

(5) 「ツール」

(本機能は現在サポートされておりません)

(6) 「ヘルプ」メニュー

バージョン情報の開示、PDF 形式でマニュアルを閲覧することができます。

4. 画面説明

アイコンメニューを以下に示します。



図4 アイコンメニュー

4.1 ファイル

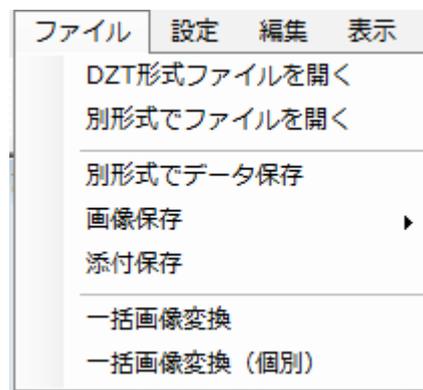


図4.1-1 ファイルメニュー

(1) DZT ファイルを開く

DZT形式のデータフォーマットファイル（以降[DZT ファイルと云う]）を読み込みます。
誘電率等は DZT ファイル内に保存された値で読み出します。

アイコン  をクリックしても起動します。

※ファイルの容量によって読み出しに時間がかかる場合があります。

(2) 別形式でファイルを開く

DZTX ファイル（DZT ファイルにポイントを打ち込み保存させたファイル）の読み込みを行います。

アイコン  をクリックしても起動します。

※ファイルの容量によって読み出しに時間がかかる場合があります。

(3) 別形式でデータ保存

DZT ファイルで開かれた画像にポイントを打ち込み保存させる場合に使用します。保存形式は DZT 形式から DZTX 形式へと変更されます。

アイコン  をクリックしても起動します。

(4) 画像保存

画像データ (A モード波形または B モード波形) のみを JPEG 形式 PING 形式 TIFF 形式 BMP 形式の何れかの形式で保存することができます。

【B モード波形】の画像保存は、アイコン  をクリックしても起動します。

【A モード波形】の画像保存は、ポイントが打たれた箇所の A モード波形を個別に画像データとし保存します。アイコン  をクリックしても起動します。

(5) 添付保存

選択されている画像データを Excel に貼り付け、xlsx 形式として保存することができます。ポイント表示されている画像データであれば配筋表を表示させることもできます (後述)

アイコン  をクリックしても起動します。

(6) 一括画像変換

複数の DZT 形式もしくは DZTX 形式のファイルを開かずに、一度に画像データ Excel に貼り付けた一つの xlsx 形式として出力・保存することができます。ポイント表示されている画像データであれば配筋表を表示させることもできます。

ファイルの読み出しが終了すると自動的に Excel ファイルが表示されます。

001.DZTX,002.DZTX,003.DZTX,004.DZTX,005.DZTX→00a.xlsx

※表示する DZT,DZTX ファイルの数が多くなるほど、読み出しに時間がかかります。

(7) 一括画像変換 (個別)

複数の DZT 形式もしくは DZTX 形式のファイルを開かずに、一度に画像データ Excel に貼り付けた個々の xlsx 形式として出力・保存することができます。ポイント表示されている画像データであれば配筋表を表示させることもできます。

001.DZTX→001.xlsx

002.DZTX→002.xlsx

003.DZTX→003.xlsx

004.DZTX→004.xlsx

005.DZTX→005.xlsx

※表示する DZT,DZTX ファイルの数が多くなるほど、読み出しに時間がかかります。

4.2 設定

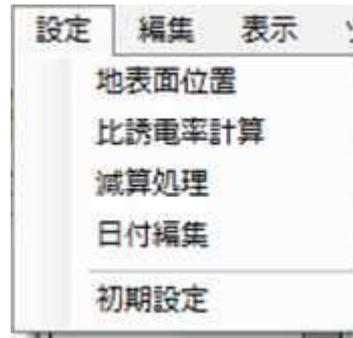


図4.2-1 設定メニュー

(1) 地表面位置

読み込まれた、又は選択された波形データ画像に対して、地表面の位置を変更することができます。

※ 5. 5.1 にて詳細説明があります。

(2) 比誘電率計算

読み込まれた、又は選択された波形データ画像に対して、比誘電率の変更を行うことができます。比誘電率を変更すると波形データの深度が再計算され、深度軸目盛りの値が変更されます。

※ 5. 操作説明にて詳細説明があります。

(3) 減算処理

読み込まれた、又は選択された波形データ画像から、指定された測線のデータを減算処理します。減算の基準となる測線は、十字カーソル（クロスカーソル）の縦軸となります。

※ 5. 操作説明にて詳細説明があります。

(4) 日付編集

選択されている画像データに表示されている作成日、測定日を変更することができます。

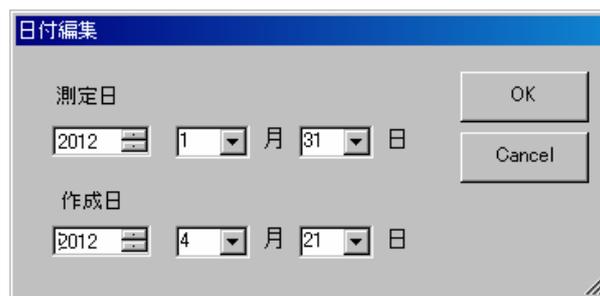


図 4.2-2 日付編集画面

(4) 初期設定

設定ダイアログに表示されている項目や画像保存を行う場合の画像の保存方式について、デフォルト形式を設定(初期設定)することができます。

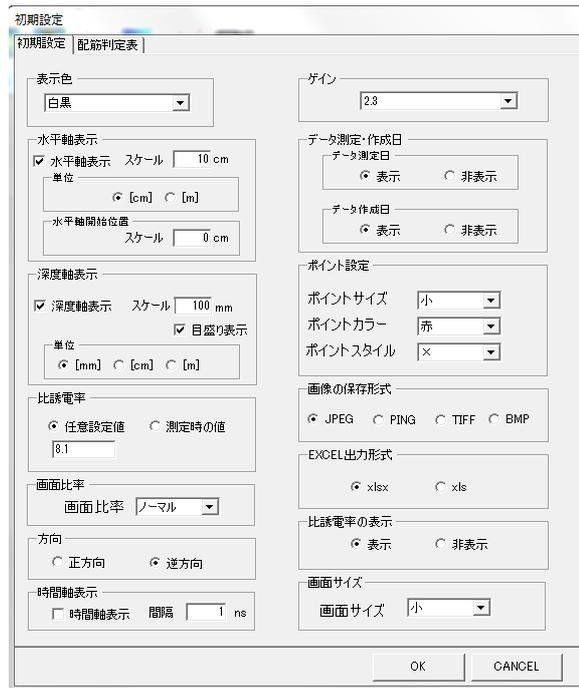


図 4.2-3 初期設定画面

表 4.2 初期設定詳細

①表示色	データ波形の表示色を設定します。白黒/黒白/白黒(階調)/赤青/多色のいずれかを選択します。
②水平軸表示	水平軸表示：軸表示の有無をチェックにより設定します。 スケール：軸の目盛りの間隔を入力します。 単位：cm/mのいずれかを選択します。
③深度軸表示	深度軸表示：深度軸表示の有無をチェックにより設定します。 間隔：深度軸の目盛りの間隔を入力します。 単位：mm/cm/mのいずれかを選択します。
④比誘電率	任意設定：データファイル読み込み時、任意で入力された値でデータを表示します。 測定時の値：データファイル読み込み時、測定時の値でデータを表示します。
⑤画面比率	データ表示の画面比率を設定します。ノーマル/1:2/1:1/2のいずれかを選択します。
⑥方向	データの表示方向を設定します。正方向/逆方向のいずれかを選択します。
⑦ゲイン	データの表示感度を設定します。1.0~4.0で0.1刻みの設定が選択できます。
⑧データ測定・作成日	データの測定日・作成日の表示を選択します。
⑨ポイント設定	ポイントサイズ：小/中/大のいずれかを選択します。 ポイントカラー：白/黒/赤のいずれかを選択します。 ポイントスタイル：○/xのいずれかを選択します。
⑩画像の保存形式	画像保存する際の保存形式を設定します。JPEG/PING/TIFF/BMPのいずれかを選択します。
⑪EXCEL出力形式	エクセルへ画像変換する際の保存形式(.xlsx/.xls)を選択します。
⑫比誘電率の表示	画像保存する際の比誘電率の表示・非表示を選択します。
⑬画面サイズ	画面サイズの小/中/大のいずれかを選択します。

4.3 編集



図 4.3-1 編集メニュー

(1) コピー

選択されている画像データをクリップボードに貼り付けます。



アイコン  をクリックしても起動します。

貼り付けたいワードやエクセルファイルを開き、右クリックの「貼り付けオプション」で貼り付けることができます。

(2) 切抜き

選択されている画像データの一定区間を切抜くことができます。



アイコン  をクリックしても起動します。

(3) 元に戻す

選択されている画像データで地表面位置の変更・減算処理・切抜き等に変更された内容を元に戻すことができます。

4.4 表示

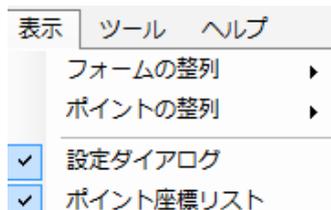


図 4.4-1 編集メニュー

(1) フォームの整列

現在表示されているフォームの整列を行うことができます。

上下に表示を行う方法と重ねて零列させる方法の二種類の表示方法があります。

(2) ポイントの整列

ポイントの表示されている画像データにのみ有効です。ポイントの番号を左から 1 とし、番号を付け直す「左→右」と右からを 1 とし、番号を付け直す「右→左」の二種類の整列方法があります。

(3) 設定ダイアログ

画面上に表示されている設定ダイアログの表示、非表示の設定を行うことができます。

(4) ポイント座標リスト

画面下に【ポイント番号】、起点からの【距離】、【被り】を表にして表示します。単位の設定は設定ダイアログの水平軸・深度軸表示スケールに従います。

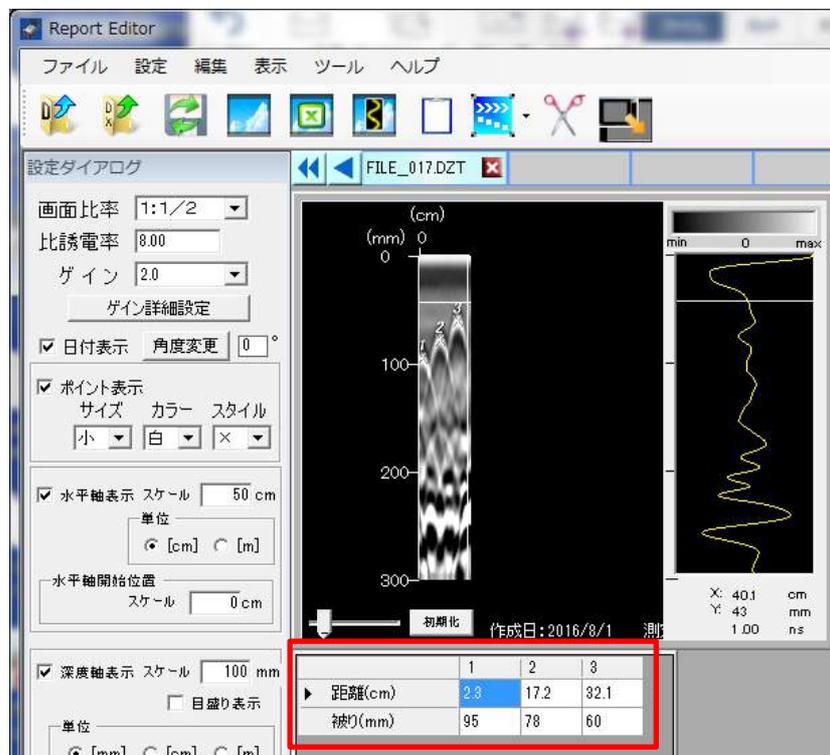


図 4.4-2 ポイント座標リスト

4.5 ツール

現在ツール機能は使用できません。

4.6 ヘルプ

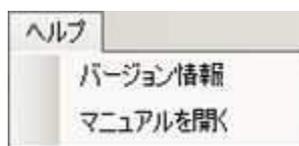


図 4.5-1 編集メニュー

(1) バージョン情報

現在の Report_Editor_Advance のバージョン情報の開示を行います。

バージョン情報画面を閉じる場合は、“OK”ボタンかウィンドウ右上の“×”ボタンを押してください。

(2) マニュアルを開く

Report_Editor_Advance のマニュアルを表示します。（PDF ファイル閲覧ソフトが必要です。）

5. 操作説明

5.1 画像データの操作

画像データに関する操作方法について説明します。

(1) 画像データの読み込み

編集する波形データの読み出しを行います。

手順1) 「ファイル」メニューから“DZT 形式ファイルを開く”またはアイコン  をクリックします。

手順2) 画像データ化したいファイルを選択し、“開く”ボタンを押します。読み出しを中断する場合は、“キャンセル”押してください。

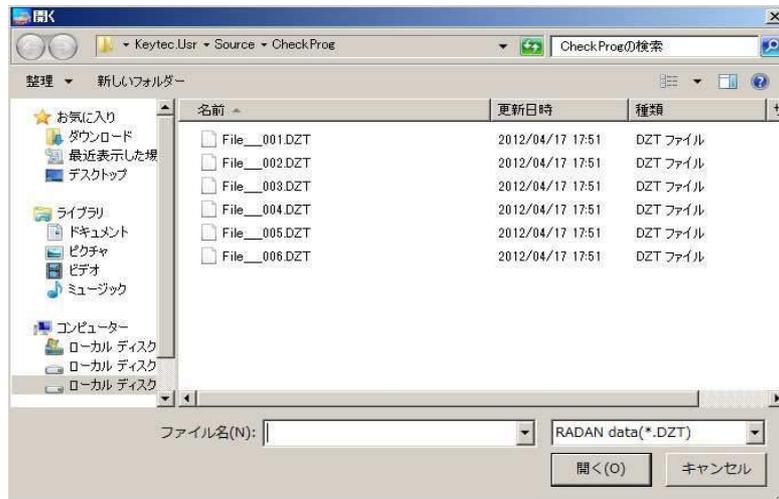


図 5.1-1 データ読み込み画面

手順3) 読み込みが完了すると下記のような画面になります。

画像データは、複数展開させることができます。

《注意》 画像データを展開させすぎると、PCのメモリ容量を超えてしまい、本ソフトウェアが終了してしまうことがあります。

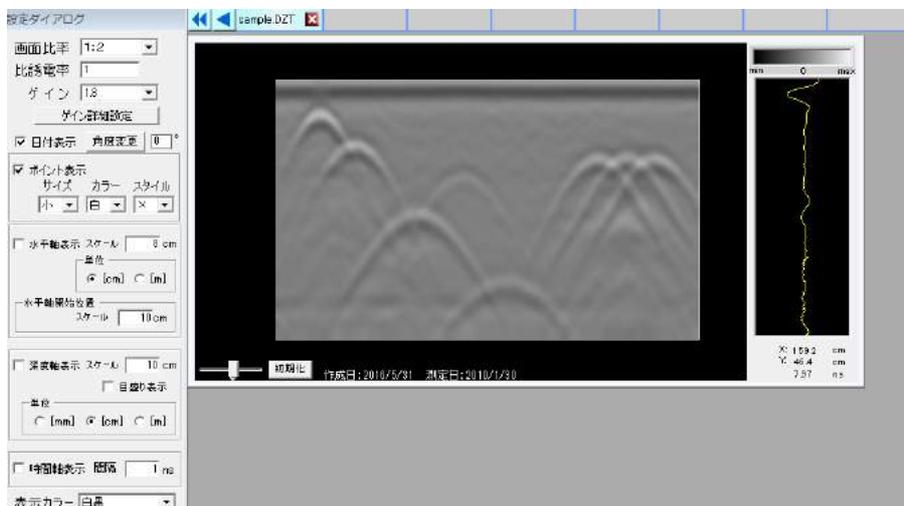


図 5.1-2 画像データ表示

(2) 画面比率の変更

表示中、または選択中の波形データ画像を次の比率で表示することができます。

ノーマル : 通常が表示

1 : 2 : ノーマル表示に対して、縦軸 1 : 横軸 2 の比率で表示します。

1 : 1/2 : ノーマル表示に対して、縦軸 1 : 横軸 1/2 の比率で表示します。

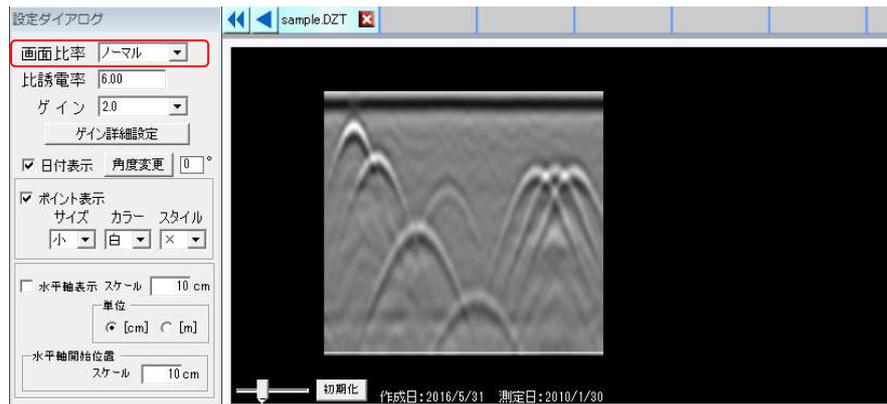


図 5.1-3 画面比率設定 【ノーマル】

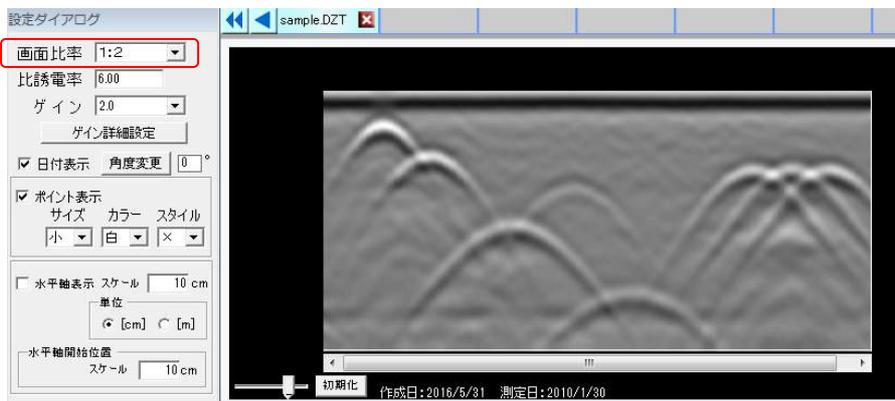


図 5.1-4 画面比率設定 【1 : 2】

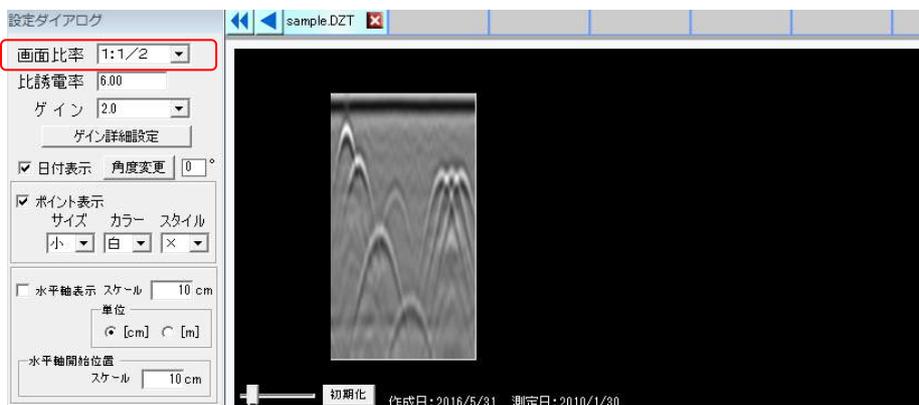


図 5.1-5 画面比率設定 【1 : 1/2】

(3) 比誘電率

表示中、または選択中の波形データ画像の比誘電率を変更することができます。

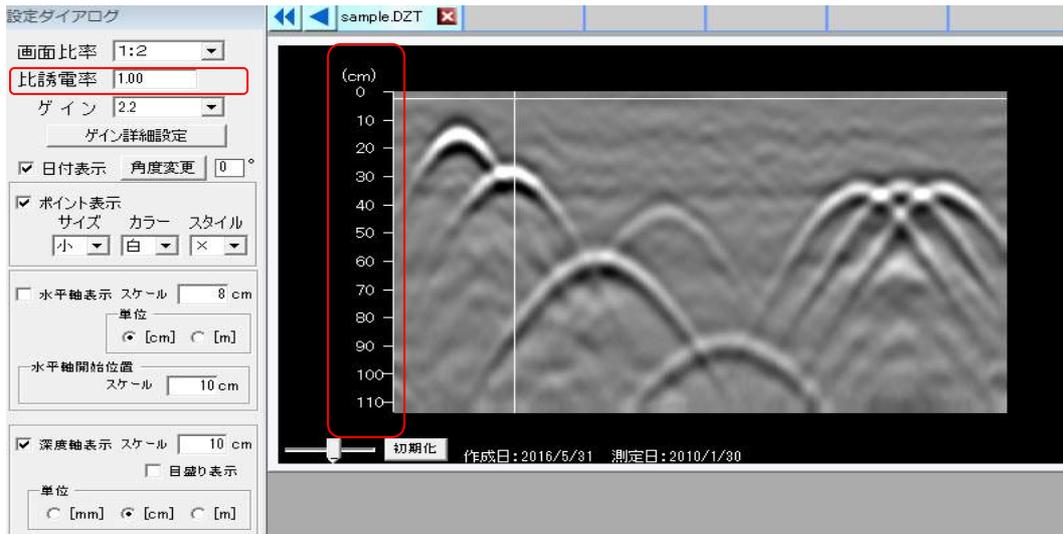


図5.1-6 比誘電率変更前の波形データ画像

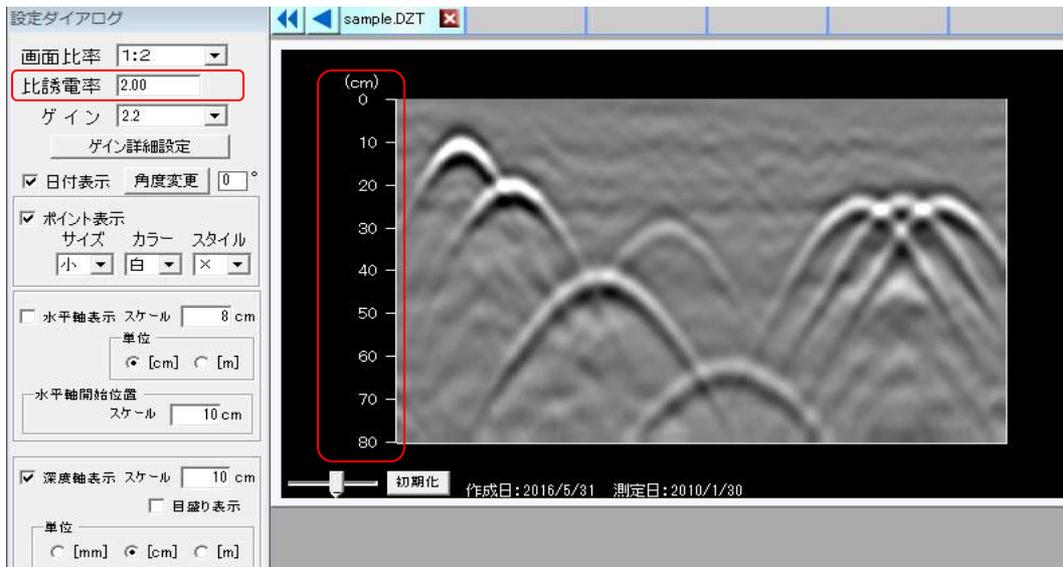


図5.1-7 比誘電率変更後の波形データ画像

比誘電率を変更すると深度が再計算され、深度軸目盛りが変更されます。

(4) ゲインの設定

表示中、または選択中の波形データ画像の表示ゲインを変更することができます。
変更可能な値は0.1刻みで 1.0~4.0 の範囲です。

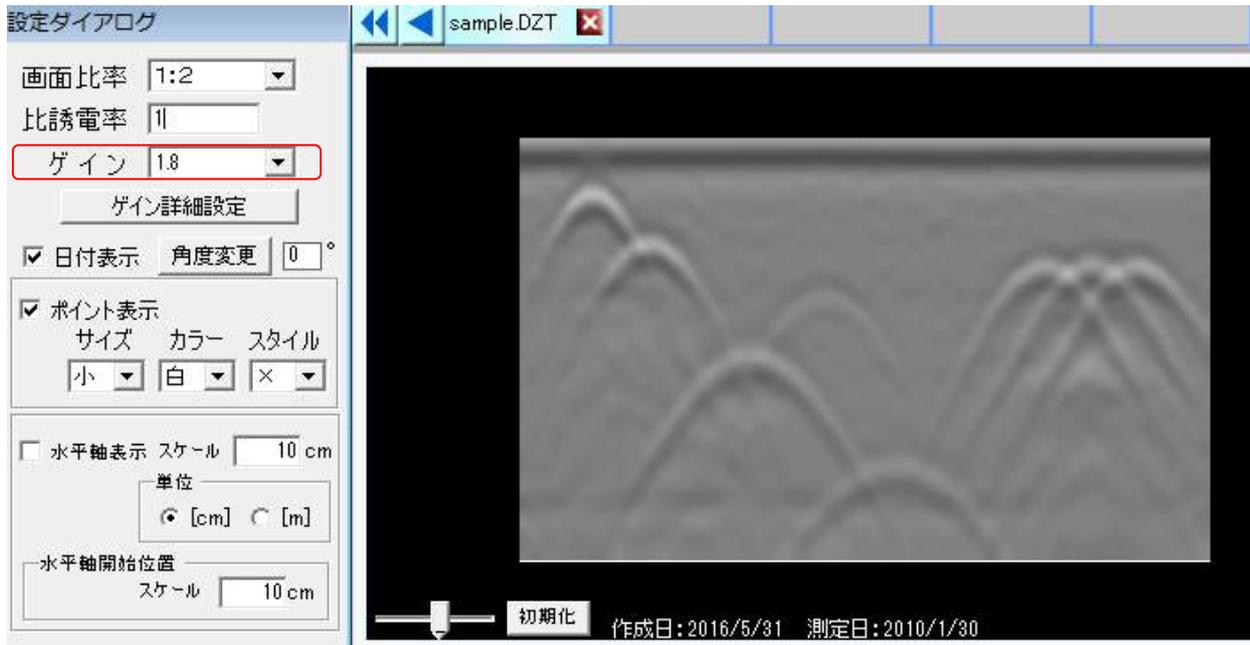


図 5.1-8 ゲイン設定 1

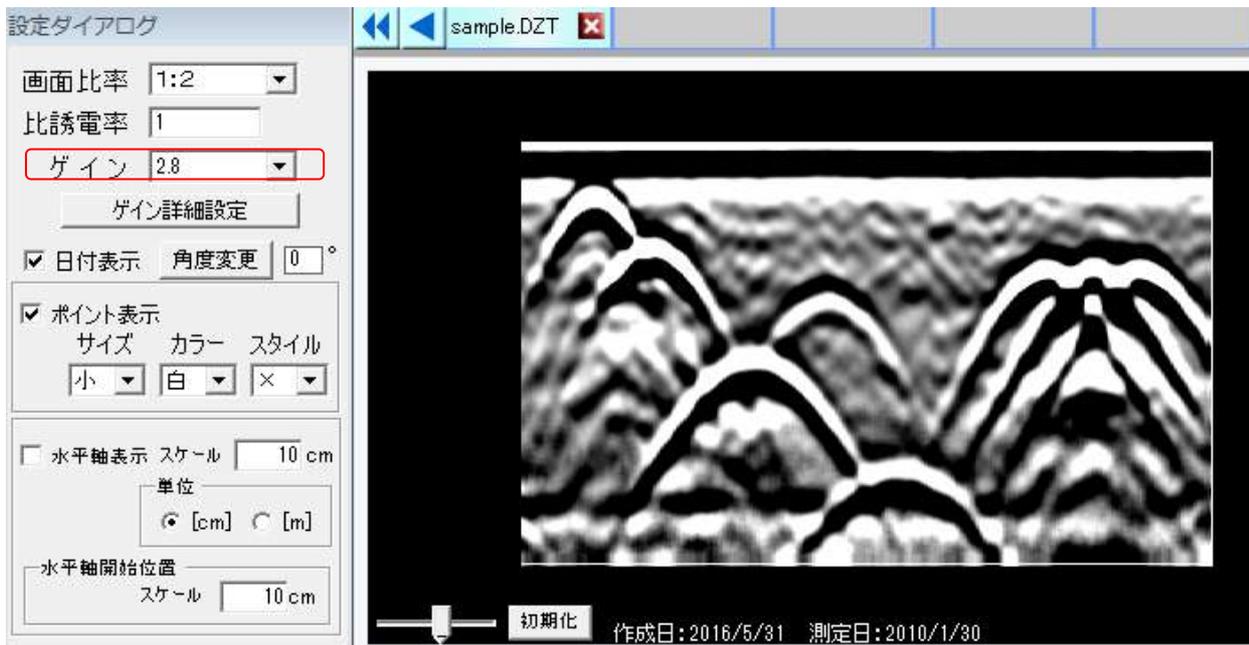


図 5.1-9 ゲイン設定 2

また「ゲイン詳細設定」を押下すると、データを縦に最大5階層に分割し、それぞれの階層に対して個別にゲインを設定することができます。

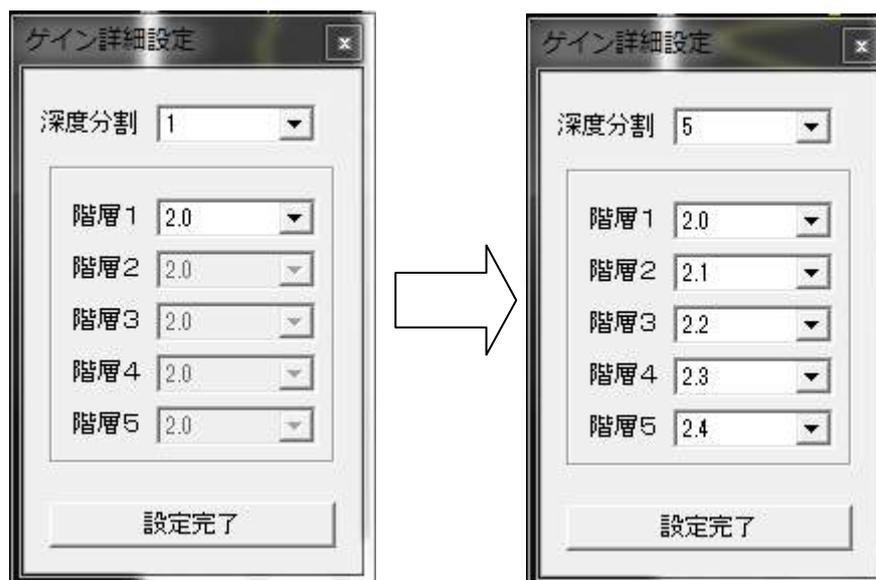


図 5.1-10 ゲイン詳細設定

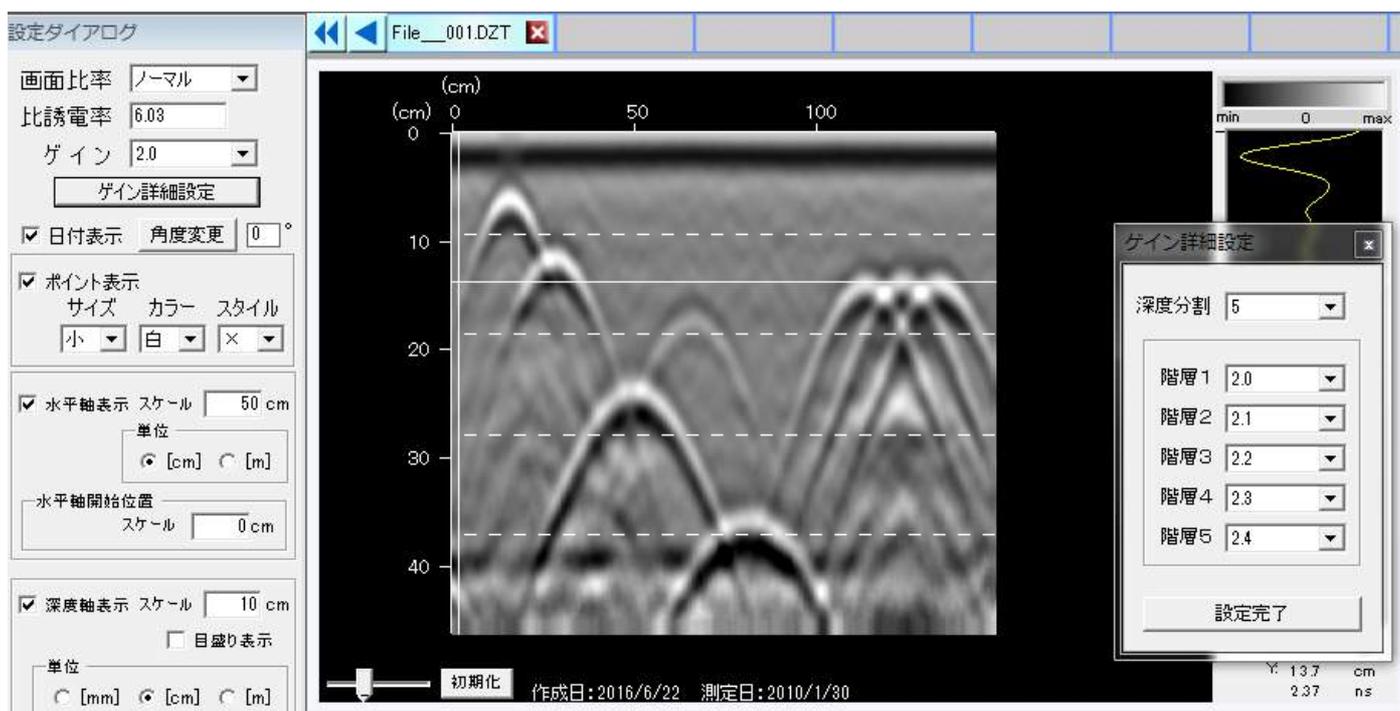


図 5.1-11 ゲイン詳細設定後

(5) 角度変更

探査面に傾斜角がある場合の鉛直かぶりを Excel に出力します。

手順1 : 「設定ダイアログ」の「角度変更」をクリックして、探査面の傾斜角度 θ を入力してください。

手順2 : Excel で添付出力すると、左図にあるように補正されたかぶり D' と起点からの距離 L' の値が鉄筋判定表に表示されます。

なお、本機能は上り傾斜角度のみ対応しております。測定は上り傾斜方向でお願いします。



図5.1-12 傾斜角度変更画面

かぶり厚(傾斜角 0°)

鉄筋 No	1	2	3	4	5	6	7	8
距離(cm)	16.1	27.6	49.4	65.6	81.6	112.7	124.2	134.6
被り(mm)	52	101	205	134	311	121	119	121
間隔(cm)	0	11.5	21.8	16.2	16.0	31.1	11.5	10.4
被りの平均(mm)	145.5							

かぶり厚(傾斜角 30°)【補正された距離、被りが表示されます(赤字)】

鉄筋 No	1	2	3	4	5	6	7	8
距離(cm)	19.1	33.4	61.2	73.4	99.6	119.7	131.0	141.6
被り(mm)	60	117	237	155	359	140	137	140
間隔(cm)	0	14.3	27.8	12.2	26.2	20.1	11.3	10.6
被りの平均(mm)	168.1							

(6) ポイント表示

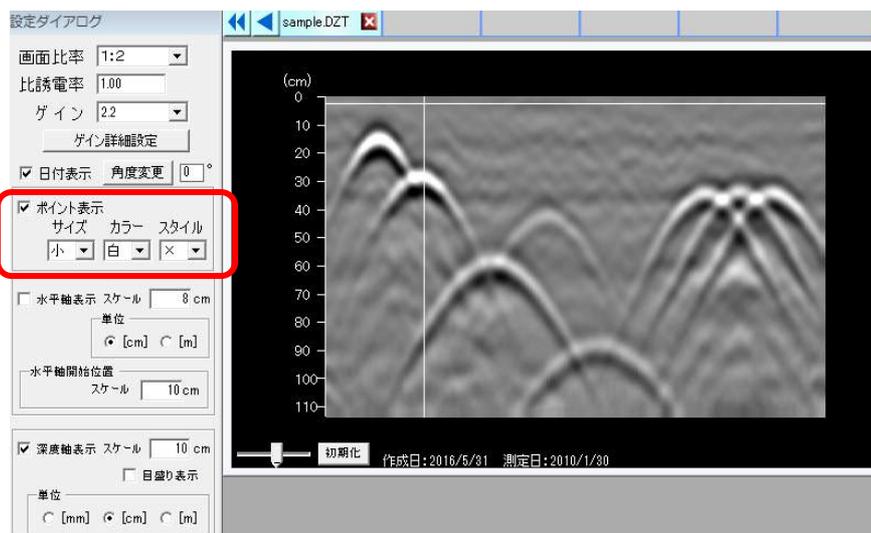


図 5.1-13 ポイント表示

設定ダイアログから選択されている画像データのポイントの表示、非表示を変更することができます。選択している画像データのポイントを表示しない場合にはチェックを外してください。（ポイントを非表示にしても、ポイントデータは記憶されています。）

サイズを変更するとすでに打ち込まれたポイントすべてが変更します（サイズの個別設定はありません。）。ポイントカラーとスタイルは、これから打ち込むポイントに対してのみ有効となっています。すでに打たれたポイントに対しては、ポイント上で右クリックすることで変更することが可能です。

(7) 水平軸の表示

表示中、または選択中の波形データ画像の水平軸方向に目盛りを表示します。設定ダイアログの「水平軸表示」にチェックを入れます。詳細な設定は以下のとおりです。

単位： [cm]：間隔は 1～1000 まで入力可能（少数入力可）

[m]：間隔は 0.01～10 まで入力可能（少数入力可）

※開始前に水平軸開始位置が“0”になっていることをご確認ください。

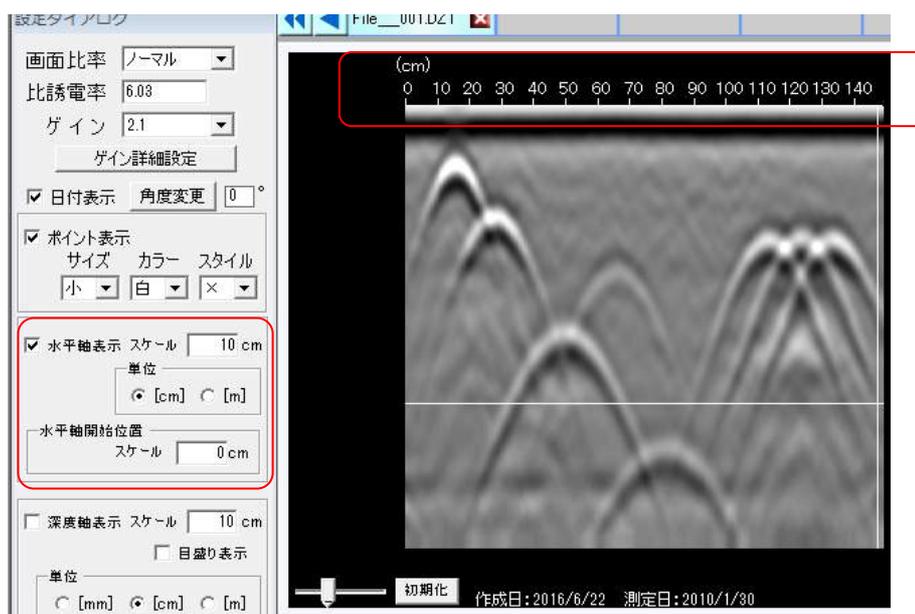


図 5.1-14 水平軸（目盛り）

(8) 深度軸の表示

表示中、または選択中の波形データ画像の深度軸方向に目盛りを表示します。設定ダイアログの「深度軸表示」にチェックを入れます。詳細な設定は以下のとおりです。

単位： [mm]：間隔は10～10000まで入力可能（少数入力不可）
[cm]：間隔は1～1000まで入力可能（少数入力可）
[m]：間隔は0.01～10まで入力可能（少数入力可）

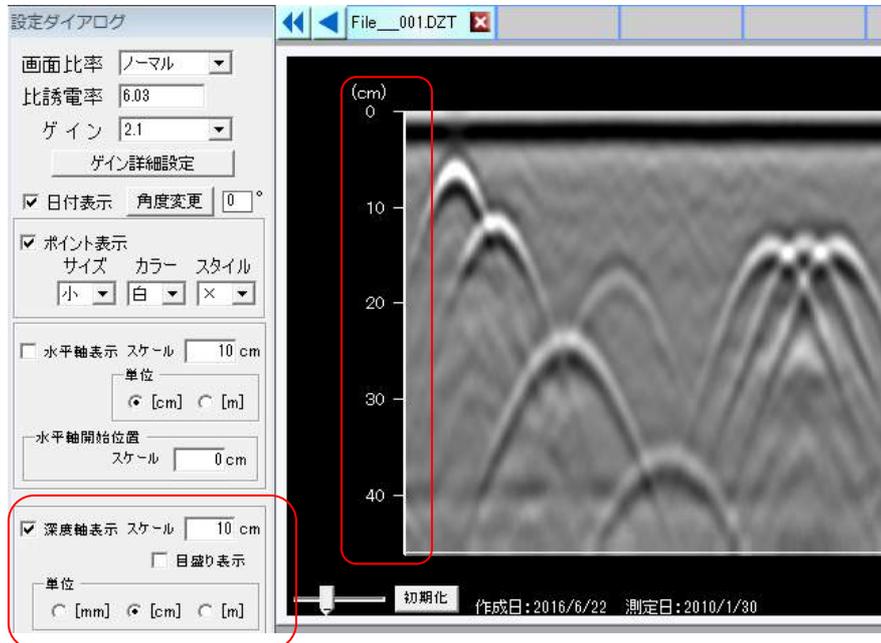


図5.1-15 深度軸（目盛り）

(9) 時間軸の表示

表示中、または選択中の波形データ画像の電磁波到達時間の目盛りを表示します。設定ダイアログの「時間軸表示」にチェックを入れます。詳細な設定は以下のとおりです。

単位： [ns]：間隔は0.1～8まで入力可能（少数入力可）

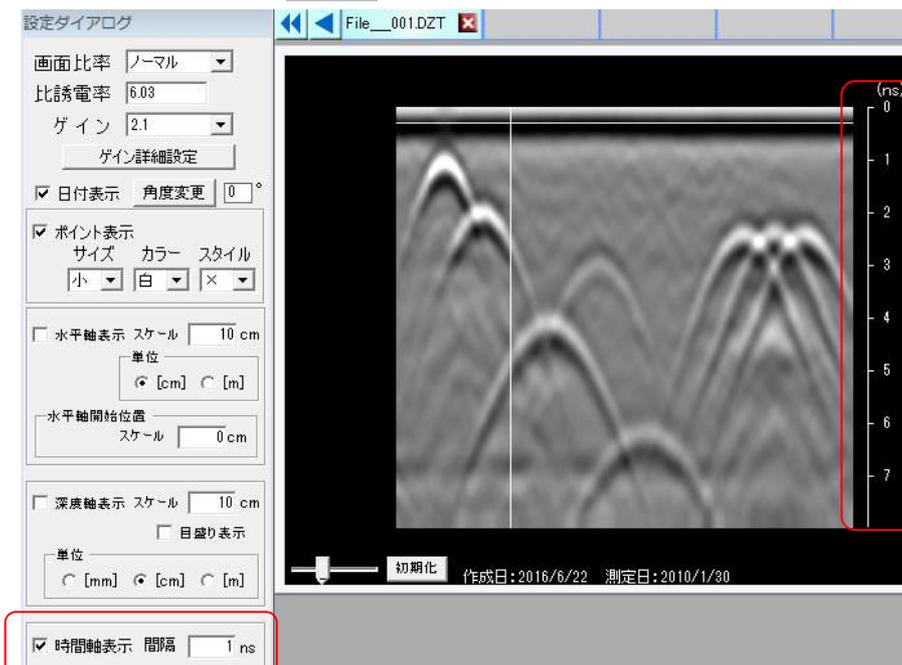


図5.1-15 時間軸（目盛り）

(10) 表示カラーの変更

表示中、または選択中の波形データ画像の表示カラーを指定することができます。
選択可能なカラーは以下の通りです。



図5.1-16 表示カラーの種類

(11) 背景消去

表示中、または選択中の波形データ画像に対し、背景消去処理を行います。

全体・・・全体に現れる横縞模様を消去し画像を見やすくします。

地表面・・・地表面反射波形を消去し画像を見やすくします。

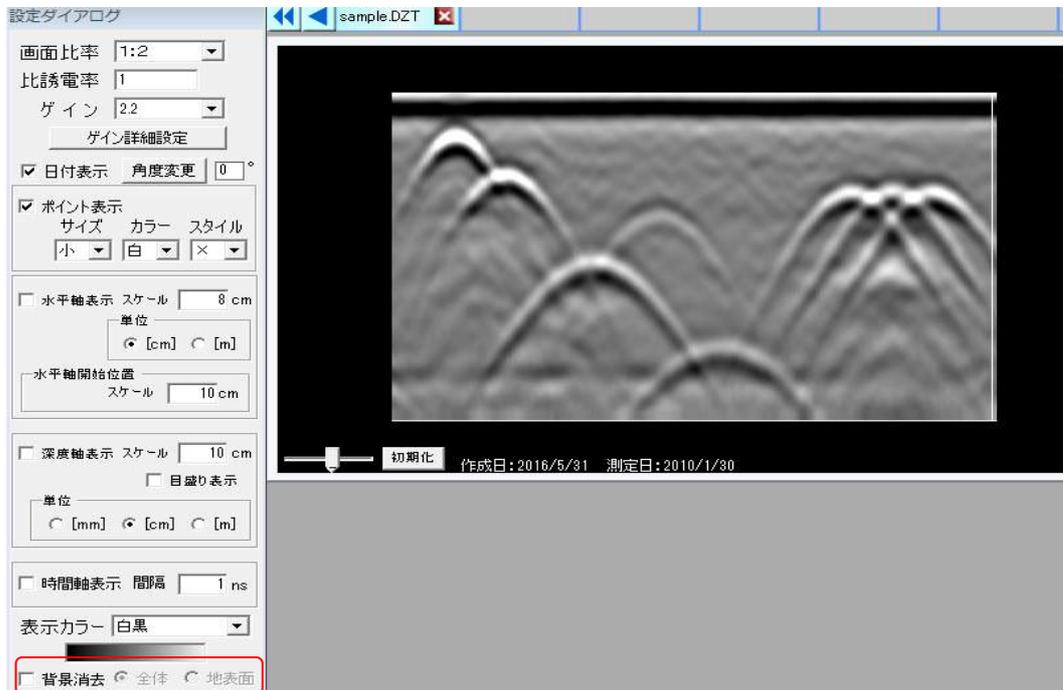


図5.1-17 背景消去前の波形データ画像

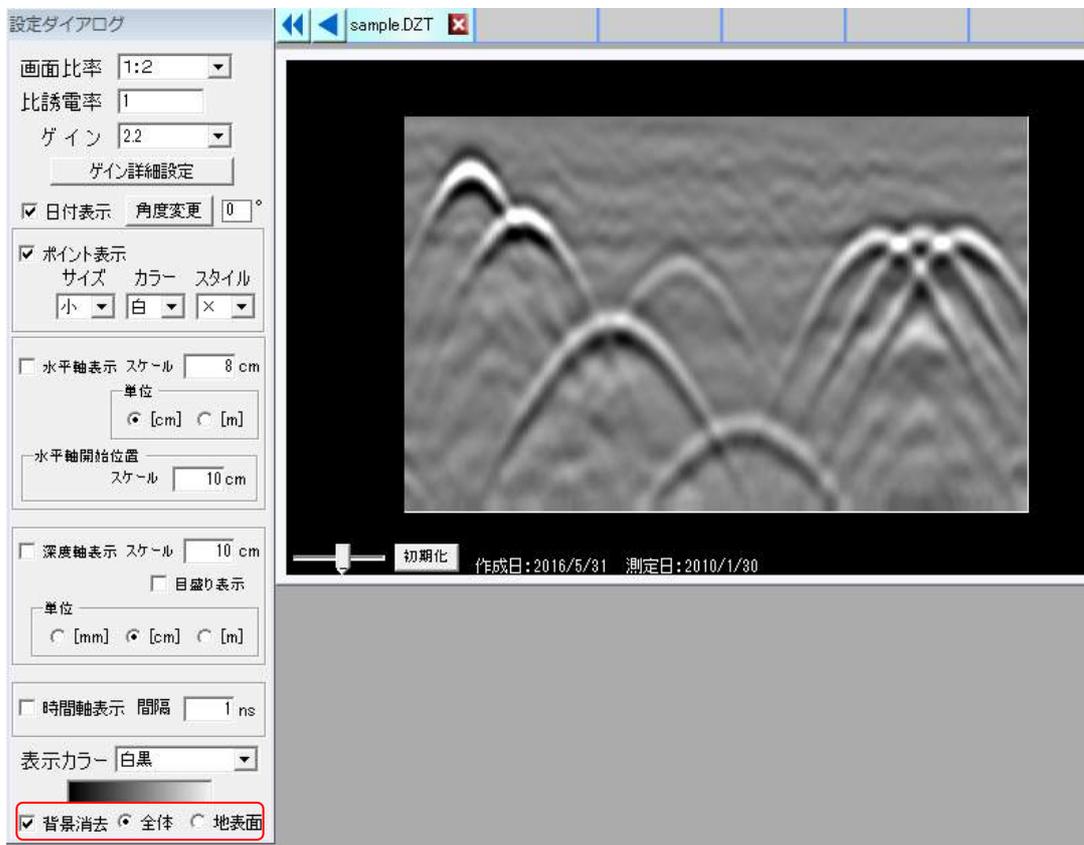


図5.1-18 背景消去(全体)後の波形データ画像

5.2 ポイント操作

(1) ポイント入力方法

表示中、または選択中の波形データに対し、任意の地点にポイントを設定することができます。

手順1) 表示中、または選択中の波形データに対し、ポイントを入力したい位置にマウスカースルを移動します。

手順2) 左クリックもしくは Enter Key を押すとポイントが入力されます。入力されたポイントは×印とポイント番号で表示されます。

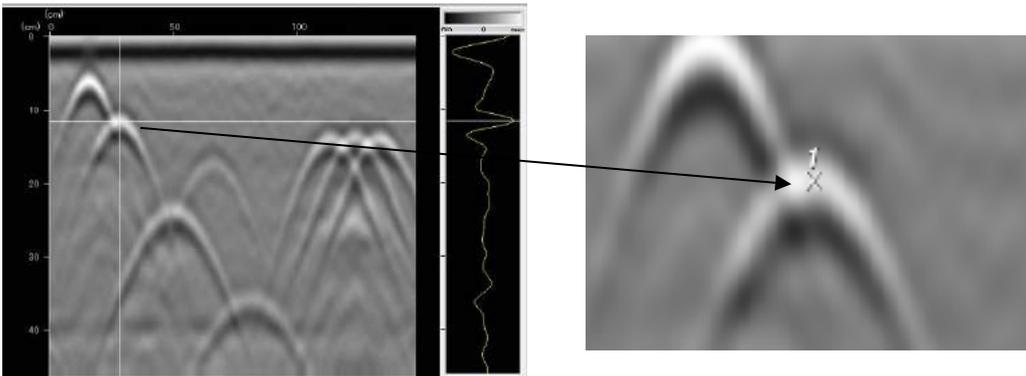


図 5.2-1 ポイント打ち込み画面

(2) ポイント削除

表示中、または選択中の波形データのポイントを削除することができます。

手順1) 表示中または選択中の波形データのポイント位置にマウスカースルを合わせます

手順2) 左クリック又は Enter Key を入力すると選択されたポイントが下記画像のような表示に変更されます。

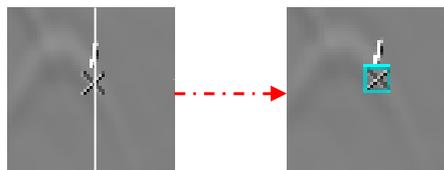


図 5.2-2 ポイント選択

※ポイントの選択状態を解除したい場合は ESC Key を入力すると解除されます。

手順3) 選択したポイントが水色の格子で囲まれている状態でキーボードの Delete Key または右クリックを押す、表示されるメニュー項目の削除を押すと、選択したポイントが削除されます。

(3) ポイント打ち直し

表示中、または選択中の波形データに対し、ポイント番号を別箇所打ち直すことができます。

手順1) 打ち直したいポイントにマウスカursorを合わせます。

手順2) 左クリック又は Enter Key を入力すると選択されたポイントが水色の格子で囲われます

手順3) 選択されたポイントで右クリックを押すと下記のようなメニューが表示されます。

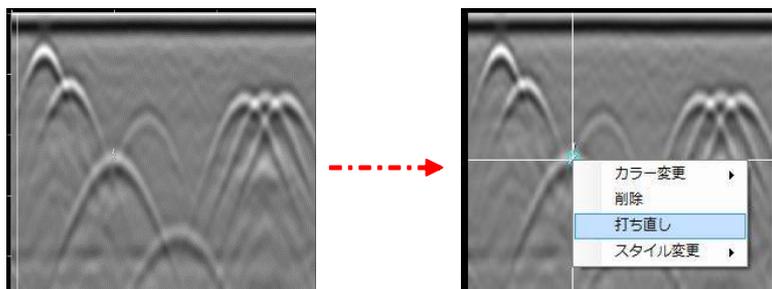


図 5.2-3 打ち直し選択画面

手順4) 表示されるメニュー項目の“打ち直し”を選択し、別箇所にもう一度ポイントを打ち込むと打ち直しを選択した番号のポイントがもう一度打ち直され、下記画像のようになります。

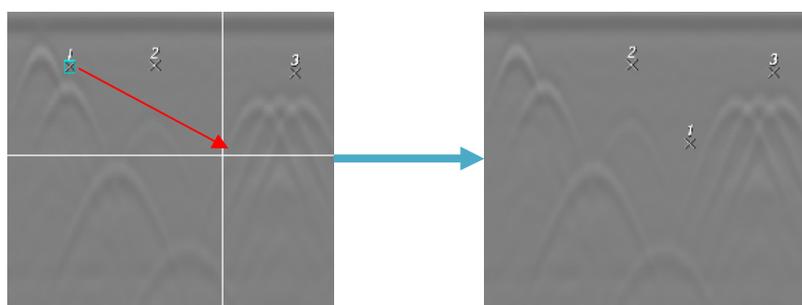


図 5.2-4 打ち直し画面

(4) ポイントカラー個別設定

すでに表示されているポイントのポイントカラーは、個別に変更することができます。ポイントカラーは、“白”、“黒”、“赤”の3色から選択することができます。



図 5.2-5 ポイントカラー

手順1) ポイントカラーを変更したいポイントにマウスカursorを合わせます。

手順2) 選択したポイント上で左クリックまたは Enter Key を押すと選択されたポイントが水色の格子で囲われます。

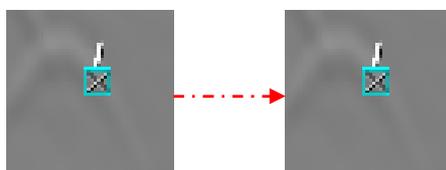


図 5.2-6 ポイント選択

※ポイントの選択状態を解除したい場合は ESC Key を入力すると解除されます。

手順3) 選択状態で右クリックを押すとメニューが表示され、下記画像のように表示されます。

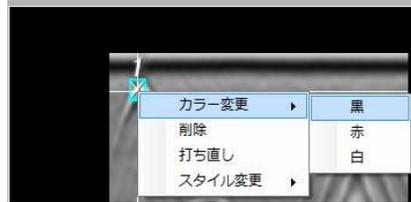


図5.2-7 個別カラー変更画面

手順4) カラー変更項目から“黒”、“赤”、“白”の何れかを選択すると選択した色に変更されます。



図5.2-8 カラー変更後

(5) ポイントサイズ変更

ポイントサイズの変更は設定ダイアログから行うことができます。

表示サイズには“大”、“中”、“小”の3つがあり、いずれかを設定することができます。

ポイントサイズの変更は、先にポイントが打たれていても、画像データに表示されているすべてのポイントサイズを一括して変更します。



図5.2-9 ポイントサイズ

(6) ポイント表示

設定ダイアログから選択されている画像データのポイントの表示、非表示を変更することができます。選択している画像データのポイントを表示しない場合にはチェックを外してください。

(ポイントを非表示にしても、ポイントデータは記憶されています。)

5.3 設定

(1) 地表面位置の変更

表示中、または選択中の波形データ画像に対し、地表面の位置を任意に設定することができます。

手順 1) 「設定」メニューから“地表面位置”を選択します。



図5.3-1 地表面位置メニュー

手順 2) 表示されるダイアログの“実行”キーを押します。ここで“キャンセル”キーを押すと地表面位置設定の処理は中断されます。

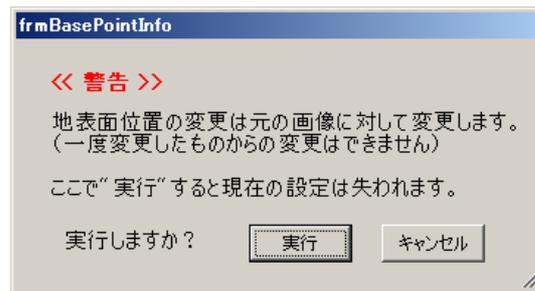


図5.3-2 地表面位置実行ダイアログ

手順 3) 波形データ画像上に表示される十字カーソル（クロスカーソル）の水平方向位置を地表面位置として設定します（マウスをクリックする）。

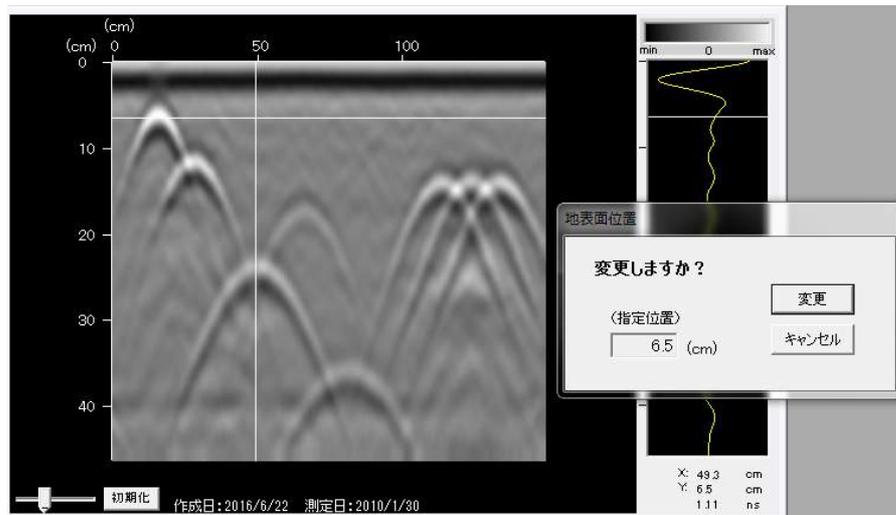


図5.3-3 地表面位置設定中画面

手順4) 次に表示されるダイアログの“変更”キー押下で地表面位置が変更されます。ここで“キャンセル”キーを押すと、元の（本来の）画像が表示されます。



図5.3-4 地表面位確認ダイアログ

手順5) 地表面位置が変更された波形データ画像が表示されます。

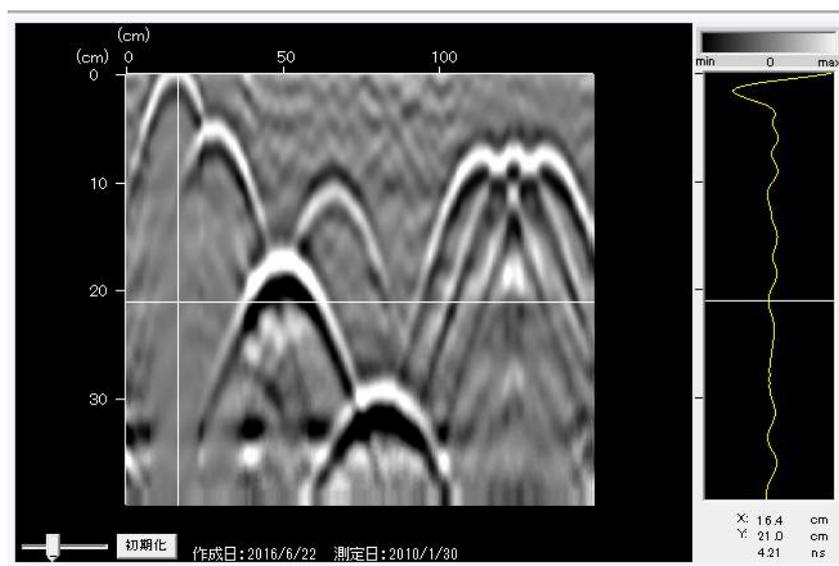


図5.3-5 地表面位置設定後画面

注意) ポイント入力後、地表面位置を変更した場合、ポイント位置がずれます。必ずポイントを入力する前に地表面位置は変更してください。

(2) 比誘電率計算

深度が既知の埋設物を用いて比誘電率を計算することができます。

手順1) 「設定」の「比誘電率計算」をクリックする。(何も表示されない)



図5.3-6 比誘電率計算メニュー

手順2) 深度が既知の埋設物の位置にカーソルを合わせて左クリックまたは Enter を押してください。

手順3 比誘電率計算ダイアログが表示されますので、「変更」に既知の値を入力し、実行を押してください。設定ダイアログに計算された比誘電率が表示されます。



図5.3-7 比誘電率計算ダイアログ

(3) 減算処理

表示中、または選択中の波形データ画像に対し、全波形データに減算処理を行うことができます。基準位置は、十字カーソル（クロスカーソル）の縦軸で指定された位置となります。

手順1) 「設定」メニューから“減算処理”を選択します。



図5.3-8 減算処理メニュー

手順2) 表示されるダイアログの“実行”キーを押します。ここで“キャンセル”キーを押すと減算処理は中断されます。

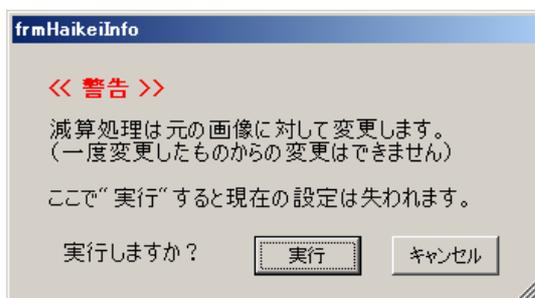


図5.3-9 減算処理実行ダイアログ

手順3) 波形データ画像上に表示される十字カーソル（クロスカーソル）の垂直カーソルを基準位置に合わせます。

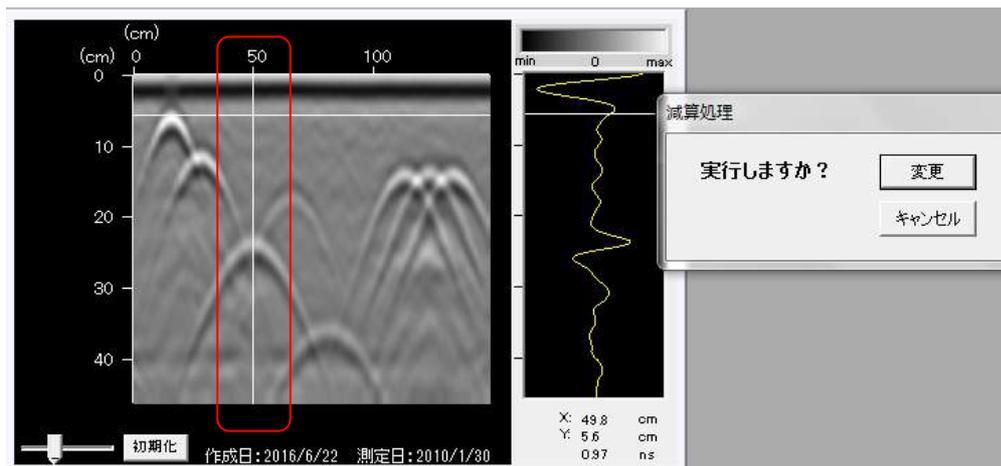


図5.3-10 減算処理置設定中画面

手順4) 次に表示されるダイアログの“変更”キーを押すと減算処理が実行されます。ここで“キャンセル”キーを押すと、元の（本来の）画像が表示されます。



図5.3-11 減算処理確認ダイアログ

手順5) 減算処理された波形データ画像が表示されます。

※減算処理では、基準位置の測線の値（Aモード）が0となります。

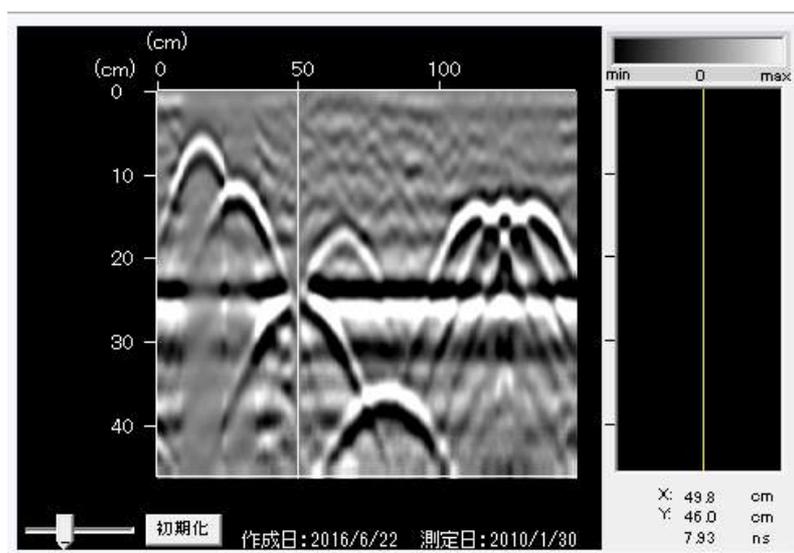


図5.3-12 減算処理置設定後画面

注意) 地表面位置の変更、比誘電率計算、減算処理後、DZTX ファイルとして保存しても変更値は保存されませんので、データはその都度エクセルに出力して保存してください。

5.4 編集

(1) コピー

選択されている画像データの画像のみをコピーすることができます。

画像のコピーを行いたい画像データを選択し、コピーまたはアイコン



をクリックしてください。

コピーを行った後、ペイントや Word に“貼り付け”を行うと画像のみが張り付けられます。word に貼り付けた場合は下記のように表示されます。

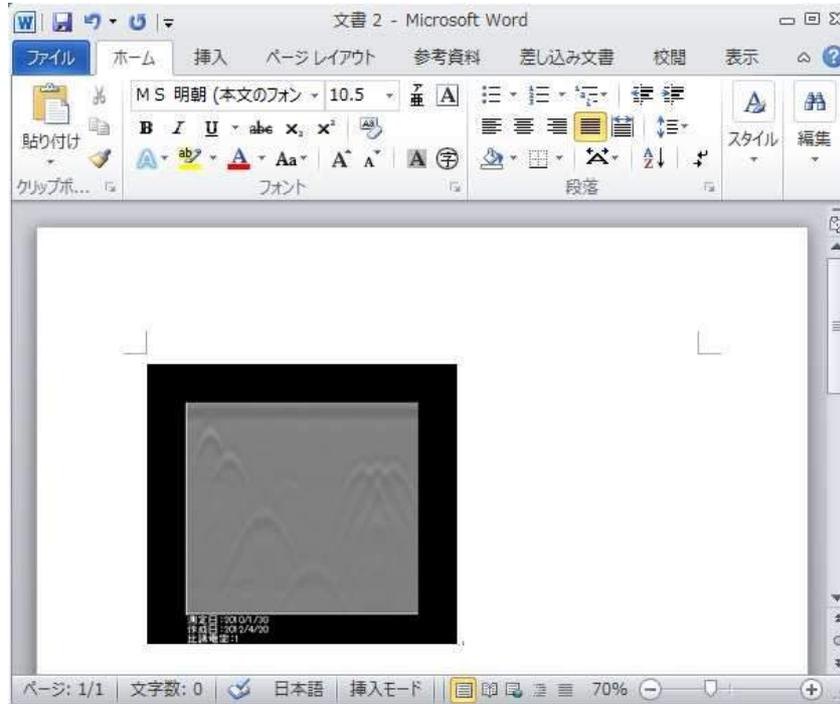


図 5.4-1 word 貼り付け

(2) 切抜き

表示中、または選択中の波形データ画像に対し、指定された位置で切抜きを行います。切抜き範囲は、十字カーソル（クロスカーソル）の縦軸で指定します。

手順 1) アイコンの“切抜き”または「編集」メニューから“切抜き”を選択します。

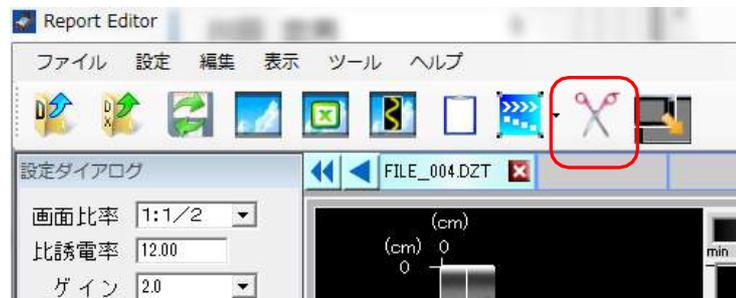


図5.4-2 切抜きメニュー

手順 2) 表示されるダイアログの“はい”キーを押します。ここで“いいえ”キーを押すと切抜き処理は中断されます。

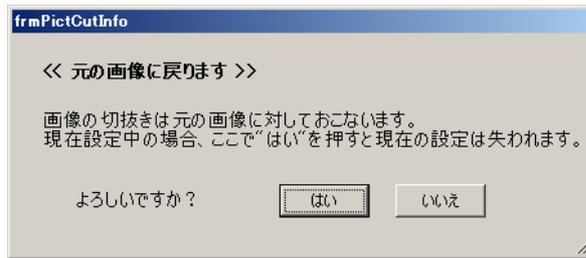


図5.4-3 切抜き実行ダイアログ

手順3) 波形データ画像上に表示される十字カーソル（クロスカーソル）の深度方向位置を基準位置として2点を設定します（マウスをクリックする）。

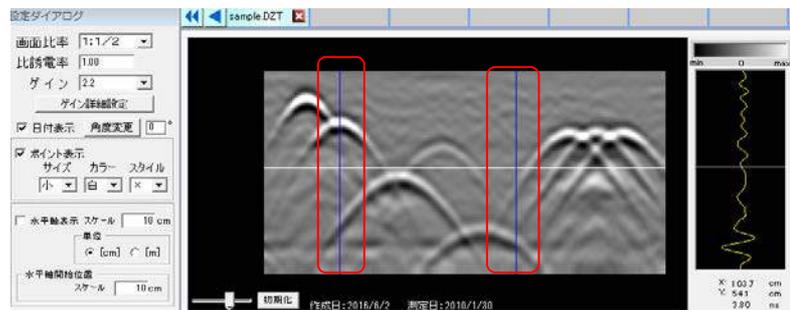


図5.4-4 切抜き置設定中画面

手順4) 表示されるダイアログの“実行”キーを押すと切抜き処理が実行されます。ここで“キャンセル”キーを押すと、元の（本来の）画像が表示されます。

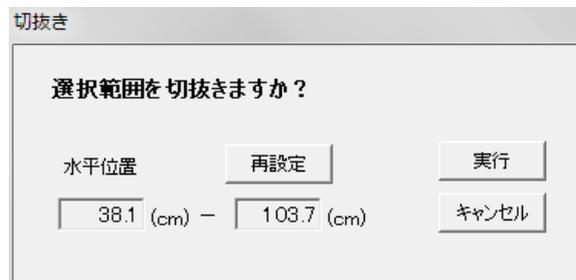


図5.4-5 切抜き確認ダイアログ

手順5) 切抜かれた波形データ画像が表示されます。

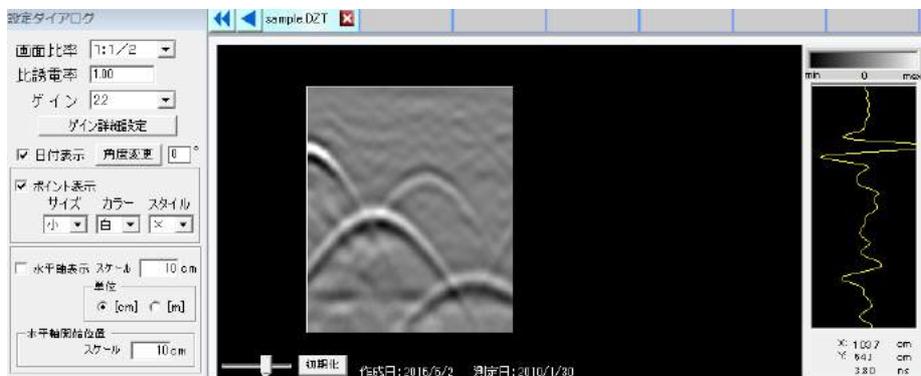


図5.4-6 切抜き置設定後画面

5.5 表示

(1) 複数の波形データ画像の整列

表示中の波形データ画像を上下に整列させることができます。

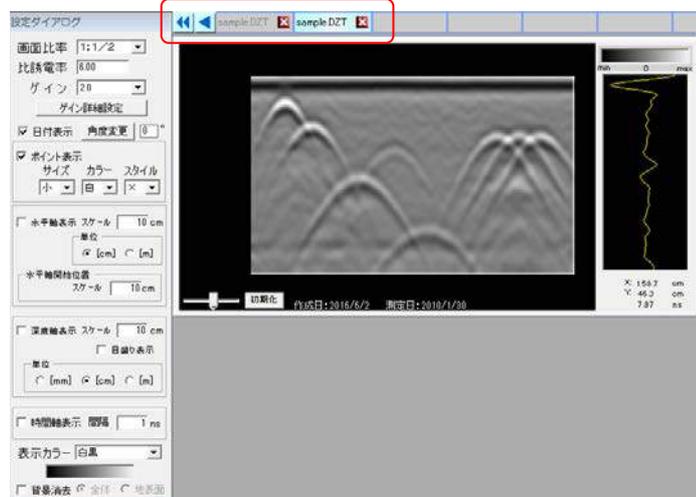


図5.5-1 複数の波形画像を読み出した画面(タブで画像を選択)

手順1) 「表示」メニューから“フォーム整列”の“上下に整列を”を選択します。

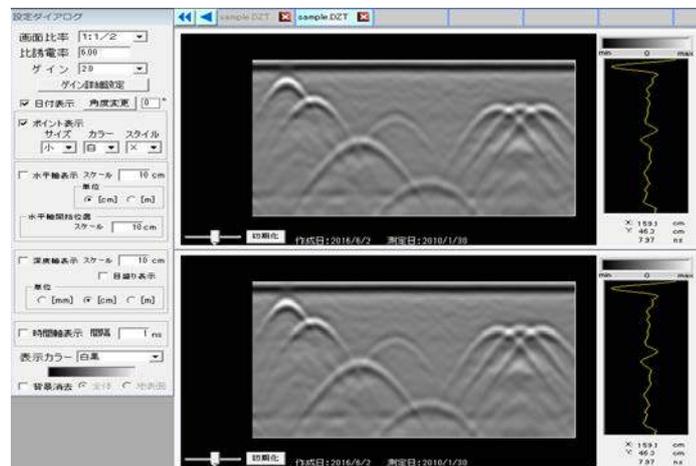


図5.5-2 上下に整列後の画像 (タブで画像を選択)

5.6 ファイル

(1) 添付保存

現在選択されている画像データおよびポイントが入力されている画像データであれば、図 5.6-3 のように配筋判定表を Excel に貼り付けて保存することができます。図 5.6-1 の配筋判定表は「設定」メニューから“初期設定”を選択し、“配筋判定表”のタブを選択すると表示されます。

鉄筋No.	表示
距離(mm)	<input checked="" type="checkbox"/>
間隔(mm)	<input checked="" type="checkbox"/>
間隔の平均(mm)	<input type="checkbox"/>
設計値(mm)	<input type="checkbox"/>
許容誤差(mm)上限	<input type="checkbox"/>
許容誤差(mm)下限	<input type="checkbox"/>
合否判定	<input type="checkbox"/>

鉄筋間隔	表示
距離(mm)	<input checked="" type="checkbox"/>
間隔(mm)	<input type="checkbox"/>
間隔の平均(mm)	<input type="checkbox"/>
設計値(mm)	<input type="checkbox"/>
許容誤差(mm)上限	<input type="checkbox"/>
許容誤差(mm)下限	<input type="checkbox"/>
合否判定	<input type="checkbox"/>

図 5.6-1 配筋判定表

手順 1) 鉄筋判定表に出力する距離およびかぶりの単位 (mm・cm・m) を選択して下さい。なお B モード画像の水平軸、垂直軸の単位と間隔の設定は、初期設定または設定ダイアログで設定して下さい。

手順 2) 鉄筋判定表にはすでに打たれたポイントデータの内容が表形式にまとめられています。鉄筋判定表の一番左のセルへ以下の項目を入力することにより、合否判定が可能です。不要な場合は入力する必要はありません。

- ・ 設計値
- ・ 許容誤差
- ・ 設計本数

手順 3) 上記のうち「設計値」、「許容誤差」の入力が完了しますと、各ポイントデータの合否判定が自動計算されます。

手順 4) 出力時に表示しない項目がある場合は各項目の「表示」欄のチェックをはずしてください。また、表の上にある「かぶり厚」、「鉄筋間隔」のチェックを外すと、該当する表そのものが出力されないようになります。

手順 5) 以上で添付保存の準備が整いましたので、「OK」ボタンを押下し、配筋判定表の入力を終了します。

手順6) 「ファイル」メニューから“添付保存”または、アイコン  をクリックします。

Excel ファイルの作成が完了すると自動的に Excel ファイルが開かれます。

手順7) お使いの PC にインストールされている Excel のバージョンによっては、下記のような警告文が表示されることがあります。添付保存した画像データを開く場合には“はい”を押してください。なお Excel の出力バージョンを変更したい場合は、初期設定の“EXCEL 出力形式”で希望のバージョンを選択してください。

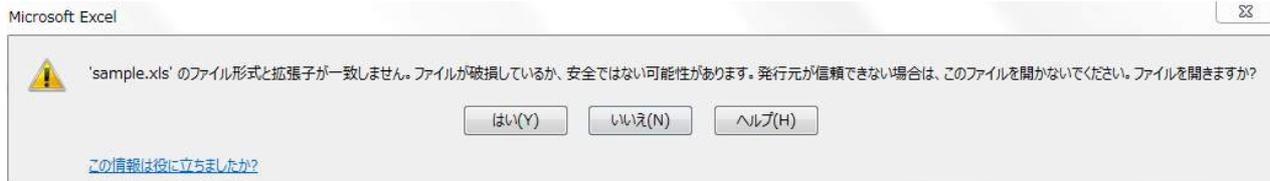


図 5.6-2 Excel 警告文

手順7) 作成された Excel ファイル名は添付保存に使用したファイル名と同名になっており、添付保存に使用したファイルと同じフォルダ内に作成されています。

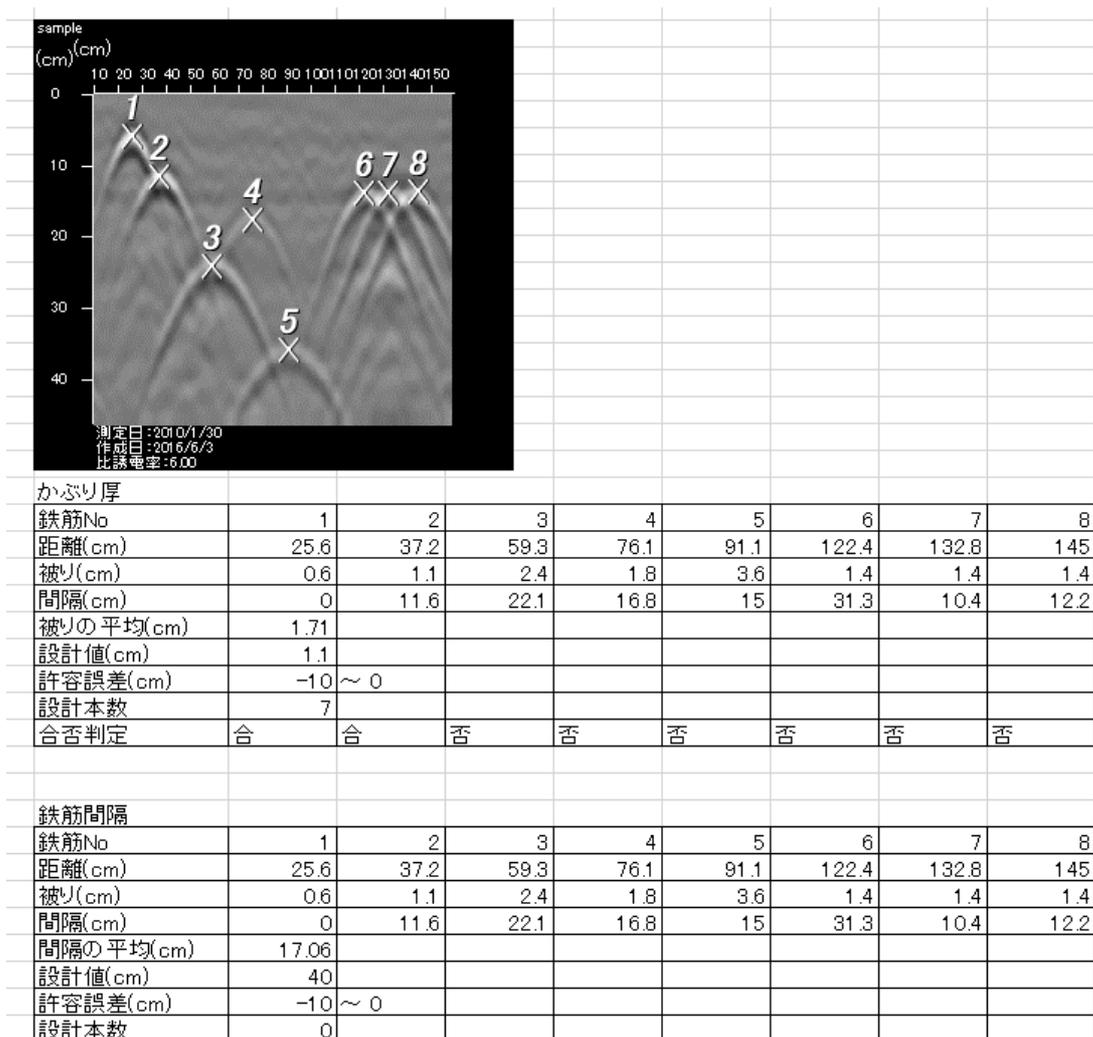


図 5.6-3 Excel 添付保存後

(2) 一括画像変換

一括画像変換をクリックするとファイル選択画面が表示されます。一度に Excel ファイルに変換したいファイル (.DZT, .DZTX) を選択してください。

キーボードの Ctrl Key を押しながらクリックすると一括変換を行いたいファイルのみを選択することができます。

すべてを選択したい場合は、ファイルを選択していない状態で Shift Key を押しながら一番下のファイルを選択してください。

選択を行うと下記のような画面になります。

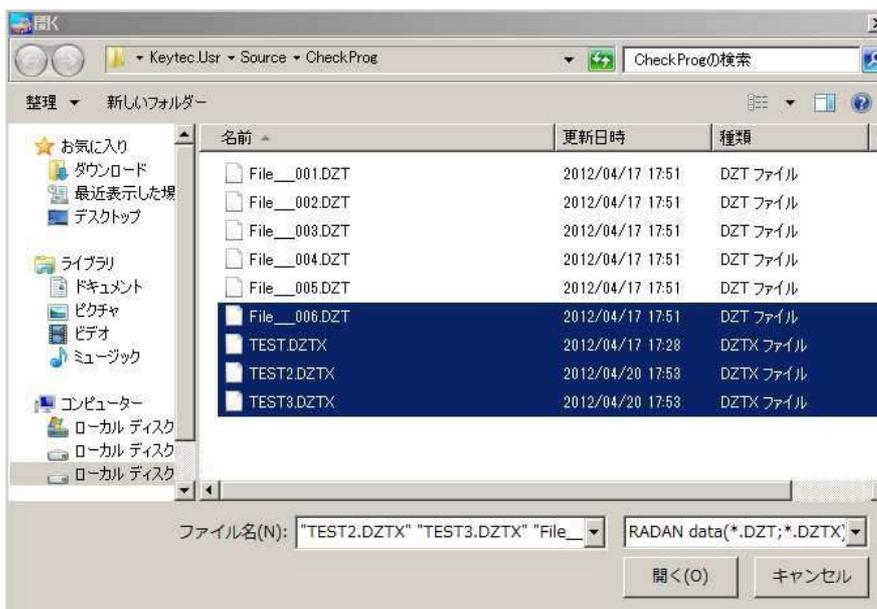


図 5.6-4 一括変換複数ファイル選択画面

一括変換を行いたいファイルの選択が完了すれば開くボタンを押してください。

(表示される順番はフォルダ内に表示されている順番で Excel に画像データが張り付けられていきます。)

注意 1) 一括画像変換時に表示できる配筋判定表の項目は添付保存する場合よりも表示数が少なくなっており、配筋判定表のかぶり厚項目からは「鉄筋 No」「距離」「被り」「間隔」「被りの平均値」、鉄筋間隔項目からは「鉄筋 No」「距離」「被り」「間隔」「間隔の平均値」のみとなります。

注意 2) 作成された Excel ファイル名は一括変換を行った日付になっており、一括変換時に読み出したファイルと同じフォルダ内に作成されています。

注意 3) 同じフォルダ内に保存しようとする既に作成された Excel ファイル名は一括変換を行った日付になっており、一括変換時に読み出したファイルと同じフォルダ内に作成されています。

ver.2.0.1.0

Report Editor Advance

製品に関するお問い合わせ先

KEYTEC

コンクリート鉄筋探査機器のパイオニア

お問い合わせ

URL www.key-t.co.jp

KEYTEC

検索

関西オフィス TEL 078-200-5217 FAX 078-200-5227

東京オフィス TEL 03-5534-8881 FAX 03-5534-8883

※この取扱説明書の仕様は製品改良のため予告なく変更することがあります。